



原点回帰。

来年で東日本大震災から 11 年目を迎えます。当時を振り返ると、三月とはいえまだ雪が降ったりと寒い日が続いていました。電気、ガスなどのインフラが数日にわたって断たれた時、何よりも心強かったのは薪ストーブの存在です。震災直後、被害がないか見て回ったOBさん宅で、「薪ストーブで暖がとれ、煮炊きもできて助かったぁ」とお話ししてくださったのを思い出します。また心細かった社員が会社の薪ストーブを囲んで眠れぬ夜を明かしました。薪ストーブは不安な気持ちにも寄り添ってくれました。

震災から10年経た今、「あたりまえ」のように過ごせている毎日に、もう一度「ありがとう」と感謝したいです。また、震災時に薪ストーブによる火災が一件もなかったことから、これを機に薪ストーブを生活のインフラの一つとして、災害時の備えとして考えていただけたらと思います。

— 余韻を楽しむ —

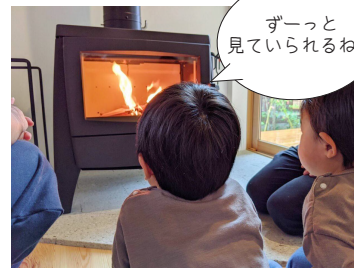


薪ストーブと他の暖房との一番の違いは“あたたかさの余韻”ではないでしょうか。夜、寝る前に1本足した薪が、朝「オキ」になっていて、ストーブの上のやかんのお湯がほど良い湯冷ましになっていたり、夕方の帰宅時には早朝に焚いた薪が燃え尽きてはいるものの、部屋の空気はほんわか暖かなままだったり。

薪ストーブは四季工房のエアパスの空気感とともに相性がいいんです。



—暮らしワクワク体感会—



焚き方を学んだ後は、薪ストーブでピザを焼いてみました。待ち時間も美味しさのトッピングのひとつ。とびきりのピザが出来ましたよ♪

自分たちで作った薪で薪ストーブを焚いています！

— 薪づくりサークル活動の紹介 —

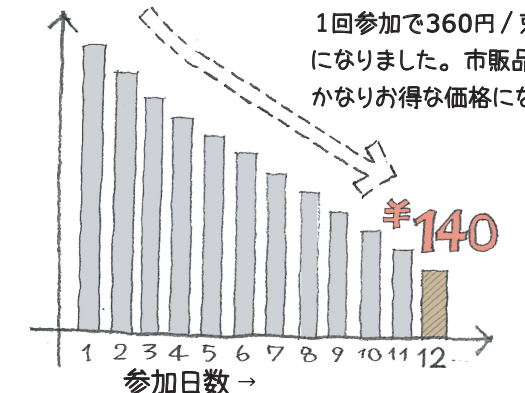


あこがれの薪ストーブ生活、いざ薪の調達方法を考えるとホームセンターやアウトドアショップからの購入では、高くとても毎日では使えないなぁと二の足を踏む人も少なくないようです。

四季工房の家で薪ストーブを設置するお客さまは、“本気の”薪ストーブ生活をしている方が多いです。つまりはメインの暖房が薪ストーブ、11月初旬から4月の始めまでのおよそ5か月間焚いています。一度、薪ストーブの暖かさを知ってしまったらもう戻れない、そんな薪ストーブ愛好家たちをサポートすべく、四季工房では薪ストーブを購入していただいたお客様が参加できる薪作りのサークル活動（薪ストーブの集い）を行っています。当社の木材加工場のある平田村「ゆいの郷」に作業場と道具、仕入れた原木を玉切りにした状態で用意、10月～1月までの約4か月間、薪づくりに参加することができます。

作った薪束は来シーズン用の薪としてサークル会員に優先的に販売しています。

参加日数や製作薪束総数に応じて、一束あたりの価格を決定しますので参加総数と製作総束数が多いほど、より安く薪束を購入できる仕組みになっています。



ちなみに 2,020 年は、12 回以上の参加で140円 / 束、1回参加で360円 / 束での販売になりました。市販品に比べると、かなりお得な価格になっています。

毎年ご夫婦で参加されている方、家族総出で来られる方、みなさん目標束数に向かって、もくもくと作業をしています。そして休憩時には、薪ストーブ談義に花を咲かせています。



薪ストーブを長年愛用しているベテランの方から焚き方のコツを教えていただいたり、ビギナー同士の失敗談など、興味深い話題が盛りだくさん！

お昼には、ひかりファームの美味しい野菜がたっぷりのお味噌汁が食べられますよ♪